

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	7	大学等名	崇城大学
テーマ	テーマⅠ アクティブ・ラーニング		

### （「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

#### 【総括評価】

B：概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。

#### 【コメント】

大学改革の加速については、自律学修センター（SALC）の実績をもとに、そのノウハウを全学に普及することで学生の自律学修マインドを醸成し、専門科目のアクティブ・ラーニング化を段階的に推進している点は評価できる。また、必須指標及び任意指標の全てで目標値を達成していることは、取組が当初の目標の達成に寄与していることの表れであると評価できる。しかし、本事業の目標として単位の実質化を掲げているにもかかわらず、アクティブ・ラーニングの推進が学生の成績の改善にどのように寄与したのかについて、単位ないし成績評価の視点によるエビデンスに基づく検証が不十分である。今後は、評価指標を構築していく際の課題の中に位置付け、更なる取組を推進することが求められる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、アクティブ・ラーニングを知識習得型、課題解決能力養成型、新価値創造型の3つのカテゴリーに分類し、効果的・効率的に実施していることは評価できる。「FDer 錬成会」への参加者数が増加している点や、教員の教育業績と研究業績を分けて評価する制度や個人配付予算というインセンティブにより、教員の動機付けがなされている点も評価できる。しかし前述のように、アクティブ・ラーニングの取組と単位の実質化、即ち、成績評価手法との関係性の検証が不十分である。例えば、全科目で図書館の指定図書等を活用した課題を課し、提出物を評価の一部としたことが、授業外学修時間の増加と学生の成績につながっているのか等について検証していくことが求められる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、令和元年度より独自の「崇城大学教育刷新プログラム（SEIP-II）」に引き継ぐ形で取組の継続性を確保していることに加え、「SEIP-II 推進会議」と総合企画課（本学 IR 部門）・教務課が協力して事業の評価を進める体制が整備されている点は評価できる。また、「FDer 錬成会」は、事務局との連携の下で、「学習アドバイジングスキルガイドブック」をツールとし、教育経験の浅い教員のための「大学人教育力養成講座」としても開催している点にも評価できる。しかし、実施体制の組織間の相互関係や連携に学長のリーダーシップがどのように発揮されているか不明確であり、また、本事業の運営のための関連する役職者等が集まる会合の開催も年に1度であることから、学長を中心とした全学的な実施体制の明確化が必要である。さらに、アクティブ・ラーニングを実施している教員1人1人からのフィードバックを本事業のPDCA サイクルに十分取り入れることができているのかが不明確である。

事業成果の普及については、「学習アドバイジングスキル」に焦点化した研修の着想は連携大学の先行実践によりつつ、理系の大学である当該大学の特性に合わせながら、アクティブ・ラーニングの基礎となる「自律的学修マインドの醸成」の手法をまとめ「学習アドバイジングスキルガイドブック（1st ed.）」として発刊したことは、独自のアプローチであると評価できる。なお、同ガイドブックは当該大学における教育に特化した内容であることから、「学習アドバイジングスキル」の開発から得られた知見の一般化と成績評価手法の開発を図りつつ、他大学へも取組を波及させていくことが期待される。